【ねがいましては】

平成３０年１２月２０日　　*KYOWA SCHOOL*
第３３８号

「恥」

恥はかきたくない。当たり前のことですが・・・。

定期購読している雑誌（PHP)、いつもすかさず見る場所が裏表紙です。今月号の題目は「絵は自在に」・・・。その一部を抜粋します。

ー子どもが描く絵はいずれも天才の冴えがある。ところが小学生になり、中高生から大人へとなるにつれて、次第に描けなくなってしまう。うまく描かなければというあせり、恥はかきたくないといった緊張。あるいは、技法をしらないからという言い訳や理屈が邪魔をして、筆が一向に進まなくなるのである。・・・（中略）人生も同じで、幼少のころ思い描いた将来は自由自在であったはず。それが年を重ね、学年の階段を上るうちに、過去の成績や他人との比較、社会の価値観に影響を受けて、つい思考が窮屈になっていく。失敗作にならないよう汲々としてしまうかもしれない。ー

ここへ通う子たちを見ていても、上記のように本来持って然るべき無邪気さが失われた状態で来られるお子さんが多く見られます。学校生活の中で行われる「比較」が、その子の元気をどんどん奪っているようです。その子ひとりがそうならきっとかなり目立ってしまいますが、結構周りを見渡してみると、同様に元気のない子が現れる。すると右へ習えで違和感のない雰囲気ができてきます。結果、活気のない場の空気が漂い気味になってしまう。

中学校で見られる授業風景、結構授業中寝ている子が見られます。これもいつもの風景、今始まったことでもないし、先生方も騒がれるよりましかといった感じ・・・？（先生方にとっては失礼なことを申します。ごめんなさい。）

比較は子どもたちに常に自分が集団の中で「恥」をかいていないか気にする習慣をつけていきます。恥をかかないようにするには、動かない・・・じっとしていれば失敗はないし、目立たないし・・・。その子を覆う「無関心」。積極性はゼロ。やがてやってくる「自分さえ・・・。」常に自分の身の置き位置を気にする・・・。これがその子を見事なまでの利己主義者へと成長させます。

先日、歯科医院で、あるやりとりを聞きました。院長先生が若者相手に何やら語っています。「これは君のポケットマネーだろ、私のところはこれで損害はないけれど、こんなことやっていたら君自身が身が持たないよ、会社だって知らないんだろ。だからこんなことはやめておきなさい。いいね。」のようなやりとりでした。だいたい想像はつくのですが、おそらくその若者営業マンは何らかのミスをし、その償いとして自らの収入から弁償をしようと考えたのでしょう。

私はそのやりとりを聞いていて、無性に憤りがこみ上げてくるのを感じました。「なんという自己中心的な若者なのだ。」

そのことを後日、授業の際に中学生たちに話してみました。「どう思う、良いことなのか、悪いことなのか。」きっと、自らの過ちを自らの責任で償おうとするその行動は、中学生たちにとっては「良い行動」と、映っているのかもしれません。しかし、本筋はまったく逆、「０」点です。

その若者営業マンは、ある会社の社員、会社の代表としてその医院に来ています。その中で発生したミス、まず即座にそのミスの内容を会社に報告、そしてどのように対処するか指示を仰ぎます。その中で、もし自分なりの対処法があればそれをひとつの解決策として発言しても良いと思います。医院は、彼とつきあっているわけではありません。その会社と契約が成立、金銭の授受が行われています。にもかかわらず彼がとった行動は会社には隠しながら、自分が犠牲になって解決をするという行動です。自己中心的行動そのもの、利己主義の固まりです。おそらく若いころから「恥」を最大の恥辱として生きてきたのかもしれません。「叱られたくない」「惨めな目に遭いたくない」などなど、自分しか考えられない環境の中に身を置いていたのかもしれません。

子どもが犯してしまった過ちがあったとします。「どうかこのことは親には黙っていてください。どんな償いでもいたします。許してください。」と、懇願しているようなものです。「親にバレたらどのような叱られ方をするのだろう。怖いよー。」完全利己主義者ですね。

ふと、灰谷健次郎さんの作品、「チューインガムひとつ」を思い起こしました。この作品は、小学３年生の女の子が、年下の子にチューインガムを盗んでおいでと命令し、それがお店の人にバレて、さらにお母さんにも知られて、お母さんはずっと泣いたままで・・・その子はどうしたらよいかわからなくて、灰谷先生の前で長い時間をかけひとつの詩を書き上げました。それが「チューインガムひとつ」です。すごい作品です。関心のある方はいつでもお声をおかけください。

生きるとはどういうことなのだろう。その子は盗みがバレて、お母さんの苦しみを目の当たりにして、きっと大きく成長しているはずです。先ほどの若い営業マンはどうなのでしょうか。人として成長できるのでしょうか。

恥をかき、叱られ、大きくなる。それには周りの方々の真剣な生き様が必要です。盗みを働いた我が子に、真剣に立ち向かったお母さんは「ひと」です。さあみんな恥を恐れていたら、お母さんが泣くよ・・・。